

2025 年度 中村高等学校
入学試験問題(推薦入試)

課題作文

1 月 22 日実施

<注意事項>

- ・ 最初の一マス目から書き始めること。
- ・ 「である調」、「ですます調」いずれかで統一すること。
- ・ 句読点は一字として数える。
- ・ 数字は一マスに一文字で記入すること。

受験番号	氏 名

中村高等学校

このページには問題は印刷されていません

問題 次の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。

都市はその発達とともに巨大化し、メトロポリスと呼ばれる巨大都市が生まれていく。都市の発達とともに、生産、流通、消費に関する施設や情報が集積し、教育や文化、医療、行政などのサービスの供給機能を備えた中心地機能が発達していく。中心都市はその周辺に与える影響が大きく、周辺地域を影響下に置く都市圏が形成される。①都市圏はサービス圏、通勤・通学圏などの指標で決定される。つまり、その中心都市に通勤や通学で通っている人が住む範囲や、物やサービスが中心都市と流通する範囲とが都市圏になる。

都市の拡大とともに都市の内部分化が進んでいく。都心には官庁、金融機関、大企業の本社・支社等の中核管理機能が集中する中心業務地区(CBD)が形成され、その周辺にはデパート、高級商店街、ホテル等が立地する。都心は経済活動の中心地となるため、地価が高くなり、建物も高層化していく。しかし、人は働くためにCBDにやって来るだけで、地価の高騰とともに住民は郊外に引っ越していくため、CBDに住んでいる人は限られ、昼間人口は多いが夜間人口は少ない。都心に住む住民は地価が高いため、土地を所有する親が亡くなると、その土地を相続した親族が高額な相続税を納められず、土地を売って郊外に引っ越すことになる。そのため、都心は人口が減少するだけでなく、高齢化も進む。このように都心部で人口が減り、郊外で人口が増加する現象をドーナツ化現象と呼ぶ。都心では人口流出とともに小・中学校の閉鎖・統合が進み、郊外にはマンモス学校が誕生していく。都心に住んでいる人が減少し、さらに住民の高齢化が進むと、さまざまな問題が生じてくる。

たとえば、地域コミュニティの存続の危機だ。京都の中心街では貞観年間(9世紀)より続く祇園祭が毎年7月に行われるが、都心の住民の減少と高齢化により、山車を引っ張る引き手が不足し、お祭りの存続に影響が出てきた。そこで、祇園祭の頃になると、京都大学からも多数の学生が引き手のアルバイトとして駆り出され、ちょうど

定期試験の時期と重なるため、試験をレポートに変えてくれという学生の申し出があったりする。日本の重要な伝統文化なので、私はできるだけそのような申し出を了承している。

・・・(中略)・・・

東京では、山手線内が都心にあたり、山手線沿線の駅から放射状に郊外に延びる私鉄線の始発駅には、電車を乗り降りするときの買い物や娯楽で便利のため、デパートや高級商店街、映画館などが集まる副都心ができていく。そして、地価の高騰と共にビルの高層化も進んでいくのだ。小田急電鉄や京王電鉄の始発の新宿、東急電鉄の始発の渋谷、京浜急行電鉄の始発の品川、西武鉄道や東武鉄道の始発の池袋、京成電鉄の始発の上野が副都心にあたる。都心の地価の高騰とともに住民は郊外へ移住するため、郊外に新たに宅地を造成する必要が生じ、1970年代初めには東京郊外の丘陵を開発して多摩ニュータウンが建設された。1970年代半ばには新宿から多摩ニュータウンまで小田急や京王電鉄が延びた。多摩ニュータウンの住民は短時間で都心に働きに行くことができ、帰宅時には新宿のデパートで買い物をし、家電量販店で電気製品を買い求め、週末には映画を見たりした。このように新宿は副都心として重要な位置を占めていったのだ。新宿の副都心としての重要度が増すにつれ、地価が高騰し、ビルの高層化が進んだが、都庁の新宿移転がそれに拍車をかけた。

都市の拡大とともに、郊外地域で無秩序、無計画に都市化が進んでいくと(②スプロール現象と呼ばれる)、農地と住宅、工場などが混在し、住宅地に隣接する工場の稼働音がうるさいとか、住宅地に残ってしまった養豚場などからの悪臭の苦情が出たり、さまざまな問題が生じてくる。このスプロール現象を防止するために、日本では市街化調整区域が設けられている。これは市街化を抑制する区域のことを指し、あらたに建築物を建てたり、増築したりすることを極力抑える区域となっている。開発行為を行おうとする者は原則として都道府県知事から開発許可を受けなければならない。開発許可を受けていない市街化調整区域の土地取引を広告する際には、「市街化調整区域。宅地の造成および建物の建築はできません」と約5.6mm四方以上の文

字で表示しなければならないとされている。つまり、家が建てられない市街化調整区域の土地は安い。安い土地を買わされて、あとで家が建てられないことが分かったときのトラブルを回避するためでもある。ロンドンでも同様にグリーンベルト（緑地帯）などの開発を抑制する地域を設定し、スプロール現象の防止に努めている。

イギリスでは都市の過密化対策として田園都市構想に基づき、第二次世界大戦後「大ロンドン計画」を実施した。そこで、ロンドンの郊外にグリーンベルトを設定し、その外側に職住近接型ニュータウンを建設した。これは職場と住居があるだけでなく、商業、文化、娯楽施設まで兼ね備えたニュータウンである。スティーブニッジ、ブラクネル、ハーロウなどのニュータウンがある。日本の多摩ニュータウンはあくまで住むためのもので、職は都心に求めるため、いわゆるベッドタウンと呼ばれている。フランスでは都心の過密化や交通渋滞を解消するために、パリの郊外に副都心のラ・デファンスを建設した。パリの市内は都市計画によって建物の高さや美観上の規制があったため郊外の副都心、ラ・デファンス地区に超高層ビルや大規模なショッピングセンター、高層住宅などが建設された。

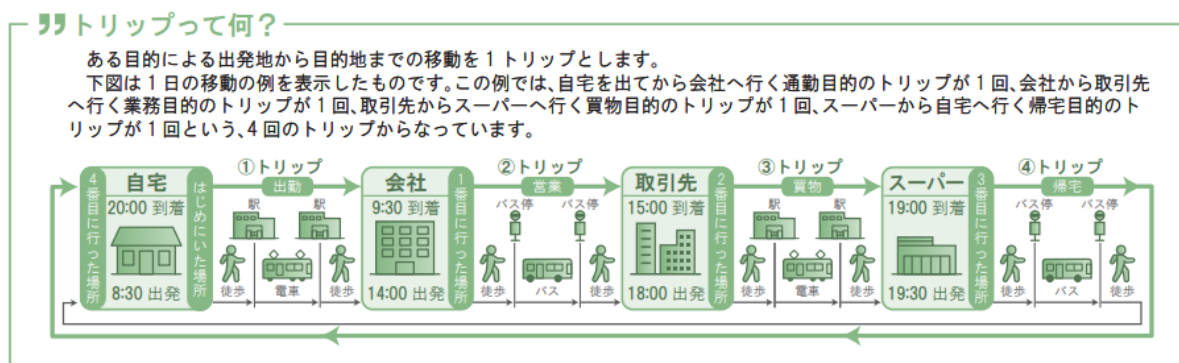
イギリスや日本では石油危機以降に産業構造が転換し、それまでの造船や鉄鋼業から、自動車やエレクトロニクスが中心になると、港湾の重要性が低下していく。そのため港湾では工場が撤退し、空き倉庫が増加して荒廃してきたが、それをあらたに開発して再生しようという動きが出てきた。これが③ウォーターフロントの再開発である。

横浜みなとみらい21や神戸の人工島・ポートアイランドや神戸ハーバーランド、浦安市の東京ディズニーランド、千葉市の幕張メッセ、大阪の天保山ハーバービレッジなどである。1980年代後半～90年代にかけて東京の芝浦の空き倉庫が利用され、ジュリアナ東京やゴールドといった巨大ディスコが誕生した。その当時は、週末の夜になるとJR田町の駅は若者たちでごった返し、駅から倉庫街にぞろぞろと歩く若者の列が続いたものだった。

（水野一晴『人間の営みがわかる地理学入門』より引用）

〔問１〕下線部①に関連して、次の<資料１～５>から読み取れることとして正しいものを、あとのア～エより１つ選び、記号で答えなさい。

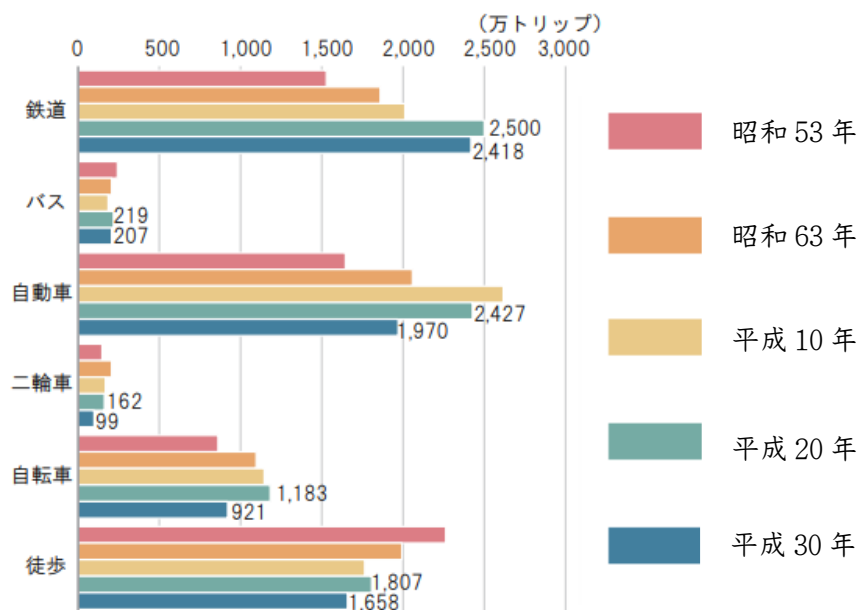
<資料１>トリップとは



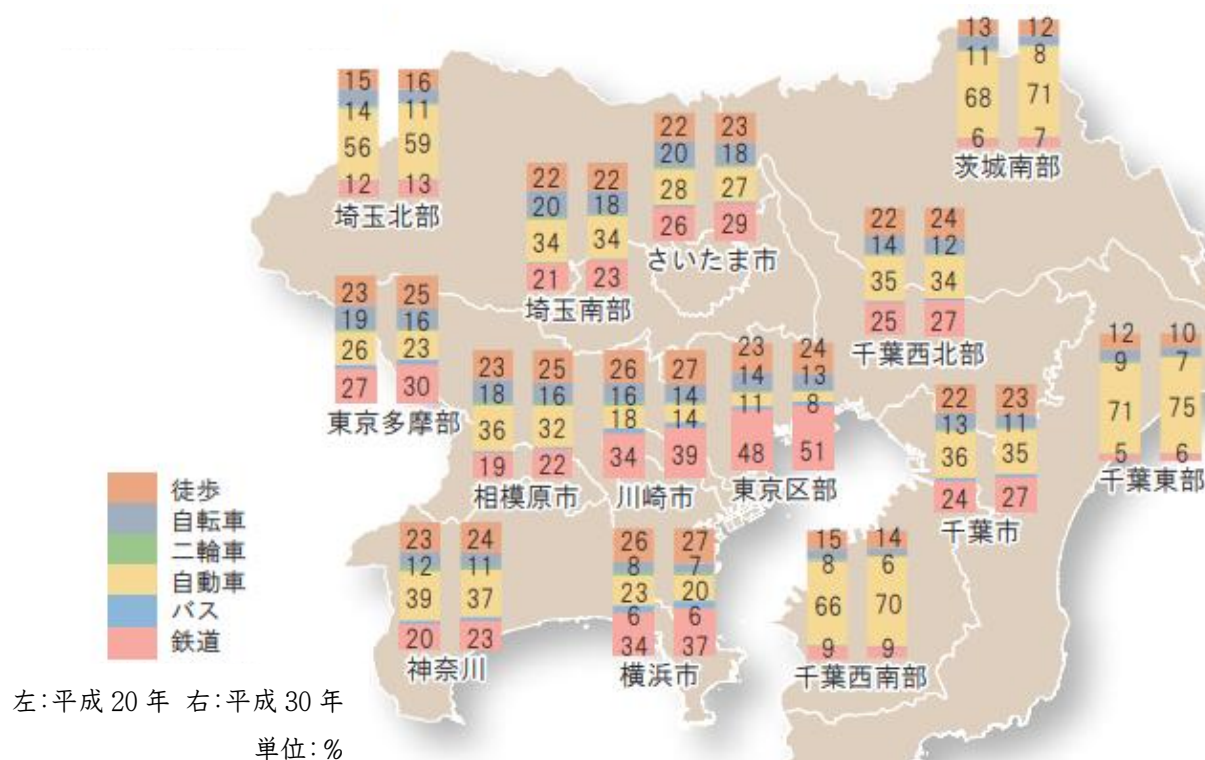
<資料２>関東地方における鉄道を使った地域間移動の様子（帰宅目的を除く）



<資料3>移動手段別のトリップ数の推移



<資料4>地域別の代表交通手段分担率*



* 交通手段分担率・・・移動するときどのような交通手段を使用しているかを示す割合のこと。

<資料5>地域間のトリップ数の変化*

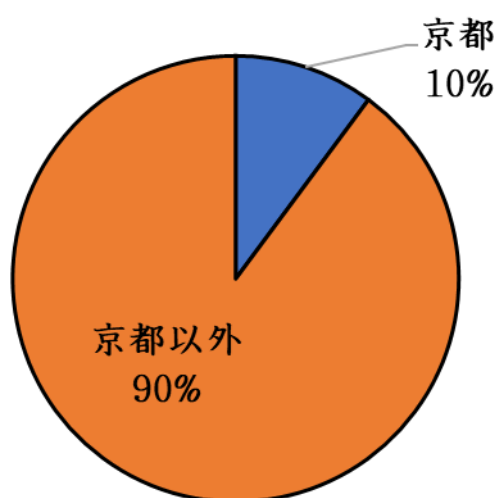


*平成20年を100としたときの、平成30年の数値。

- ア. 関東地方の鉄道を使った移動を見ると、どの地域からも直接東京区部に移動している事が分かる。
- イ. 昭和53年から平成30年にかけて、鉄道と自転車のトリップ数だけは常に増加し続けている。
- ウ. 地域別の代表交通手段分担率を見ると、東京区部から離れると自動車の分担率が上がる傾向がある。
- エ. 平成20年から平成30年にかけて、トリップ数は全ての地域間で減少している。

〔問2〕この文章のタイトルは、「都心のお祭りは学生バイト*で維持されている？」である。このタイトルのように、都心のお祭りが学生バイトで成り立つようになった理由を、本文と資料を参考にしたうえで、「CBD」と「ドーナツ化現象」という語句を用いて、100文字以内で説明しなさい。ただし、使用した指定語句には下線を引きなさい。

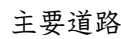
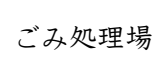
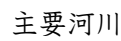
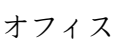
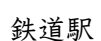
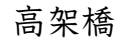
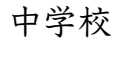
<資料6>2024年度京都大学入学者の出身別割合



* 学生バイト…給料を受け取ってその活動に参加する学生のこと。

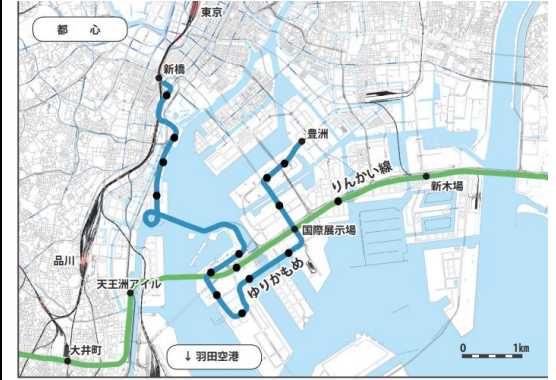
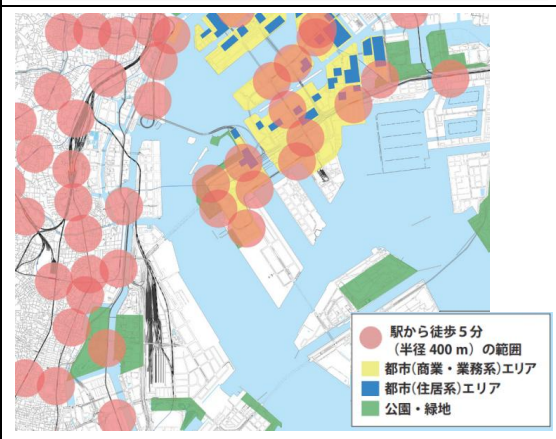
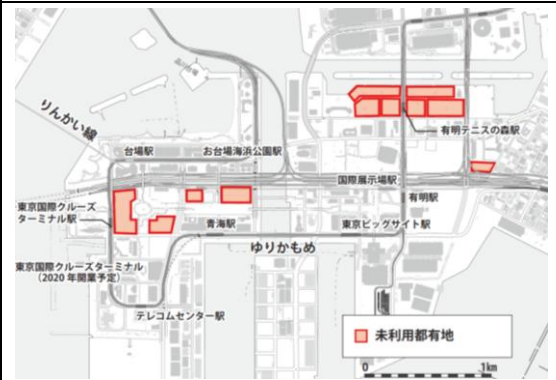
〔問3〕下線部②の「スプロール現象」に関連して、次の図のような町をより住みやすくするためには、どのように施設を配置したらよいか説明しなさい。ただし、解決のために設置できる施設は次の4種類から2つとし、それらをどこに、どのように設置するかをそれぞれ25文字以内で、また、そのように設置したことでどのように解決するかを、その理由と共にそれぞれ50文字以内で、それぞれ答えなさい。

公園

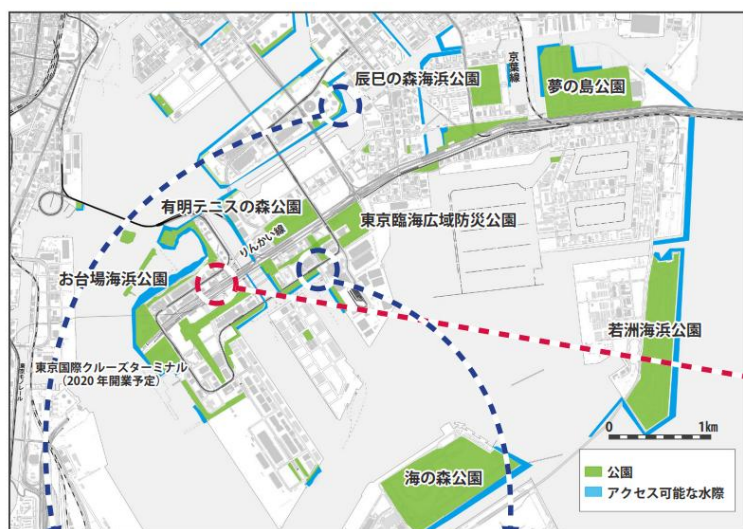


〔問４〕下線部③の「ウォーターフロントの再開発」に関連して、現在、江東区の南部に位置している臨海副都心エリアは、＜資料７＞＜資料８＞に示したようないくつかの課題をかかえています。その課題を解決するために、＜資料９＞のような提案が東京都に提出されました。この提案について、①あなたは賛成か反対か、②その理由と論拠を１００文字以内で答えなさい。ただし、論拠では＜資料７＞＜資料８＞と＜資料９＞をそれぞれ複数参考にすること。

＜資料７：臨海副都心の現状＞

	○鉄道によるベイエリアへのアクセスは、ゆりかもめ、りんかい線の２ルートに限られる。 ○ゆりかもめは一編成当たりの定員が少ないほか、路線バスは定時性や運行頻度に課題があるなど、十分なサービスが提供されていない。
	○駅から徒歩５分（半径４００ｍ）の範囲外となるエリアが都市エリアにも存在するほか、アクセスが難しい公園もある。 ○ベイエリア内の移動に関しても、ゆりかもめやバス等の公共交通が存在するが、まちのスケールが大きく徒歩移動等に適していないため、域内移動の利便性に課題がある。
	○未利用地や暫定利活用中の用地が存在しており、有効に活用しきれていない。 ○青海、有明北を中心にまとまった未利用地が存在し、今後のまちづくりにおいて大きな役割を果たすことが予想される

<資料 8：臨海副都心にある公園や水際の現状>



<公園>

○広大な公園がエリア内、特に臨海副都心エリアに多く存在する。

○緑、自由に使える公共空間が潤沢な一方で、イベント開催時等以外には十分に活用されているとはいえない。

○シンボルプロムナード公園など幅が広く、徒歩で回遊するには面積が大きすぎるエリアがある。域内交通手段も確保されていない上、途中で休憩するカフェ等もない。

<水際>

○アクセス可能で水際を歩ける歩道や親水空間も多く存在する。

○一方、目的地が駅周辺に多いため、水辺を歩く人は少ない上、対岸に渡りづらいなど、ネットワークとしてのつながりが不足している。

<資料9：官民連携チームによる開発ビジョン『11Colors』の提案内容>

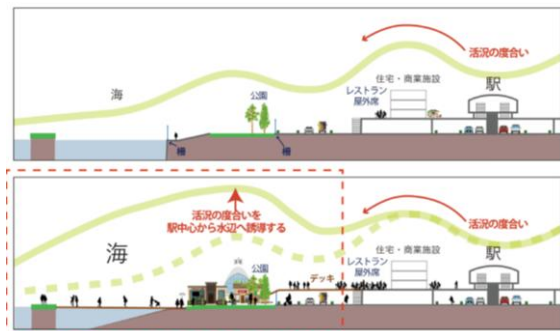
○鉄道以外の様々な交通手段の整備する



○空き地にスポーツ施設を整備する



○水辺にも賑わう施設を生み出す



○地下鉄を延伸する



○道路や公園、水辺の使い方を考える



○空港からの観光客が楽しめる施設を作る



(「11Colors;未来創造のデザイン」「東京ベイエリアビジョン」(仮称)
の検討に係る官民連携チームの提案」より一部抜粋)